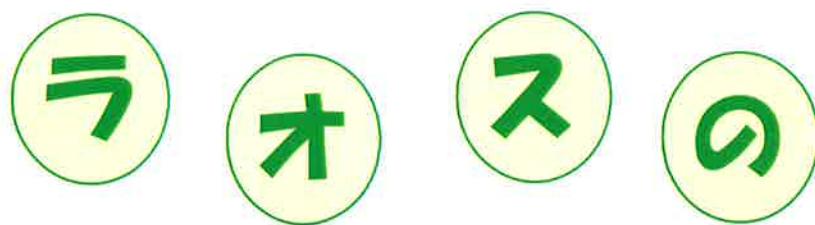




谷川ご夫妻



## 農村に小学校を建てる

元県立こども療育センター所長 谷川 裕先生



あかね会特別講演会を、8月24日(土)磯部コミュニティーセンターにて開催しました。

講師には、谷川 裕先生をお招きし「ラオスの農村に小学校を建てる 安サラリーマンにでもできた」と題してお話しされました。

谷川先生は、昭和17年に丸岡に生まれ、地元の平章小、城東中を卒業され、藤島高校を経て、金沢大学医学部を昭和41年に卒業されました。

しかし、当時学部紛争中のため捕鯨母船の船医として半年間乗船しておられます。

そして、福井県立病院外科に採用され、定年退職まで25年間勤務され、その後、こども療育センター所長を経て現在は、県病検診センターにて嘱託医として勤務されていました。

・どうして小学校を建てる気

の設備を通じて、子供たちが希望を持ち将来の夢を広げる環境を整えることを目的としています。



ラオスの子供たち

昭和23年福井大震災で、弟と共に倒壊した家の下敷きになつたが、父兄たちに助け出されたがいつかは人の為になることをしようと二人で誓い合つたことがきっかけです。

### ・弟さんがAEFA設立

AEFA(アジア教育友好協会)は、アジアや日本の子供たちが世界に目を開くきっかけを提供し、アジアの将来を担い未来を育てることを目指し、学校建設により貧しさや格差に喘ぐ地域で教育環境

指し、学校建設により貧しさや格差に喘ぐ地域で教育環境等ベトナム戦争時の爪痕が未だに残る地域です。土壤が痩せており耕地も少なく、村の生活は貧しい状態です。まずは食べるための農業や食材集めが優先され、教育を受けていない子供が60%に達している地域で、小学校があつても掘立小屋のような建物しかなく安心して学べる環境ではありません。

### ・ラオス視察

まずは、平成26年にラオスの教員養成短期大学に、食事テーブル付きの炊事場を整備しました。炊事場の名称を、「フサコハウス」と付けました。



印度シナ半島唯一の内陸国であるラオス。人口は686万人。山岳地帯には少数民族が住んでいます。翌年11月に中学校建設を援助した方と共にラオスを訪問し建設現場を検討しました。

学校建設は、平成27年1月に着工し、村人たちが積極的に参加し木材の伐りだし、校舎のレンガ積みなども行いました。子供たちも一生懸命草取りをしました。雨季になると水につかる土地のかさ上げも村人たちが中心となつて行い、校庭を整備しました。私達は、いつも子供たちが運動できるように整備された校庭にプレイヤーマットを寄贈しました。着工から一年半後の、平成28年10月に、ノンコーン小学校開校式の運びとなり大歓迎を受けました。



ラオスの位置

・輝く瞳のこの子達のために 小学校を建てる



ノンコーン小学校